

愛媛県神道青年会々報

第9号

昭和54年8月1日

発行
 ●790松山市道後
 桜谷町173
 愛媛県神社庁内会
 愛媛県神道青年会
 0899-21-9875

愛媛神道青年会

昭和54年度 事業計画決まる

早いもので、私が会長に就任致しまして早一年が過ぎました。県下のブロック活動は、やや軌道に乗りだした感も致しますが、当初あれも、これもと想いを廻らしておりました事柄が、十分な成果も上げる事無く時を過ぎた事深く反省致しております。本年は特に重点目標として、「より広く、より高く」をテーマに活動を積極的にしたいと思っております。「より広く、より高く」とは、各自の立場に有って、県内外の青年神道人との友情を深め、知人を求め神道人以外の有識者との交流を持ち現在の環境を重視することなく、今より一段高い理想を求め、宗教人として天地自然の理法に基く実践をし人格の完成に向けて努力をしよう、

と言う意味に御理解いただければと存じます。以上の理由からも前年度反省の第一は、会費納入者の減少と言う、会にとつては最も大切な、参加する事の意義を問われた問題です。今日の会報にも、会員名簿を掲載しておりますが、本会再発足以来、一度だけでも会費を納入して下さった人は、約百名にも達しておりますがしかるに前年度納入者は四十五名と会員資格者の半数以下に落ち込み、私自身努力を怠った結果と深く反省しております。が私連執行部の力の及ばぬ点は、御協力を御願ひ致します。皆様方一人一人の会では有りませんか？ 本年は一人一名の会員に声を掛けて、会に出席を求めていた

だきたいと思ひます。

六月に入り、二つの大きな喜びがございました。一つは今回大会において、元号法の成立を見た事。今一つは、全神協が三十周年を迎えた事でございます。共に先輩諸兄の積年の努力の結果と拝察しここに其の情熱と誠意に対し敬意を表します。特に和田得信元会長におかれましては、三十周年式典に於いて全国表彰を受けられました事を会員各位に報告をすると共に、お喜び申し上げます。

さて、全神協では、ブロック各に中央研修会を開催致しておりますが来年二月北陸ブロックに於いて終えますと、残るは四国ブロックのみ未開催となり、昭和五十六年二月と三月の間に四国ブロックで開催せねばなりません。尚其の年の四国ブロック錬成会の当番県が愛媛に当り、ブロック錬成会を中央研修会に切り変えお引き受けせねばなりません。愛媛は勿論四国ブロックの会員に於いては、経済的にも、精神的にも、肉体的にも大変な負担とは存じますが全国各地の青年神職が、友情を深め意見を交換し、各地の実状を語り会えると言う点では、此の上ない機会と存じます。此の機会に見聞を、又認識をより深く、より高く、より広くしようではありませんか。祭式、

楽雅、模、講演、等々、一つ一つが私共神道人にとって、非常に大切ななくてはならない、全体の一部分と思ひます。宗教人として究極の目的である世界の平和と、人格の完成に向けて一段づつ共に登ろうではありませんか。

昭和54年度事業計画

1. 中央研修会の参加
 2. 四国ブロック研修会の参加
 3. 四国ブロック錬成会の参加
 4. 神香協三十周年記念大会の参加
 5. 会組織の充実
 6. 財政の確立
 7. 各ブロック会活動の促進
 8. 国旗掲揚促進運動
 9. 鎮守の森の緑を守る運動と緑化対策
 10. 神宮式年遷宮奉賛運動の実践教化委員会
- (一)研修会講習会の実施
 (二)研修旅行の実施
 (三)会員の諸行事への参加の促進
 事業委員会
 (一)氏子青年会の結成促進
 (二)ポスター類、パンフレット類の作製と配布
 広報委員会

- (一) 会報の発行
- (二) 斤報の活用
- (三) 講演録等の発行

- 調査委員会
- (一) 実施調査の活用
- (二) 調査活動

神青協中央研修会に参加して

副会長 清家 貞宏

去る二月二十二、二十三日の二日間、岩手県の盛岡市盛岡八幡宮を会場に神青協の中央研修会が開催され、本県より長曾我部会長と私の二人が参加したのである。

去る二月二十二、二十三日の二日間には雪の少ない温暖な日々で、例年なら道路も一メートル位の積雪があるとか、岩手山を望む風光明媚な所での研修会となった。

総数二百十三名の青年神職が、白衣白袴で居並ぶ姿はまさに壮観で、全国同志の集いという事で意を強くした。出席者の中には、大学で同じ釜の飯を食った後輩が四、五名いて「やお前も神主やっているのか」「先輩お先気ですか」等々つもる話に花が咲いたりもした。

今回のテーマは「今後の展望と課題」―「神青協三十年のあゆみを振り返って」ということで研修が行われた。

神青協が敗戦の余燼の中、その産声をあげてより早や三十年を迎える。この三十年の間、本会は先輩諸兄の英智と努力の結果により今日の発展を遂げて来たのである。言うまでも

なく、神青協は、各都道府県単位の結合体であり、単位会があってこそなりたっている。各単位会が個々にその充実を計ると同時に、各ブロック内の緊密化、本部との連携を強化することによって、沖繩を除く四十六都道府県での単位会結成という現在の姿を見るに至ったのである。

そして、本部と単位会が丸と丸となつて、外に向つては国民精神の根幹に関わる諸問題や次代を担う青少年の教化育成問題を取り上げ又、内に向つては、会員の自己研修の強化や財政の確立等に勉めて来たのである。

ここで我々は今一度この三十年の自己の足跡を振り返ると共に、二十一世紀に向つて本部と単位会が共にあゆんでいくための本会のあり方やビジョンについて語り合った。

神青協前会長の戸内康雅先生による「神道青年に期待されるもの」の講演があり、この中央研修会がお祭り行事等に終る事なく、常に問題を持つ青年になれ。神道青年に期待されるのは誰か。それは神様であるからして、日本人の信仰の中で次第に失われつつあるものを復活伝承していきけるのは神道青年しかいないのである。その意味に於いても現在の神社界、神社本庁をかき回す人材育

成に努めなければならないと奮起を促された。

分科会では「財政の拡充を如何に計るべきか」で、各単位会より事業報告があり、中でもユニークなのは神奈川のチャリティコンサート(さだまさし)を開催し、二百万の収益をあげ実収入が百万円あったとか、山形の足袋を共同購入して安く配布してあげるとか、東京の神柵宮型、三方配布とか、山梨の国旗領布、総代、神職パッチ、ネクタイ配布で収入をあげているとか、長野の特産物の販売とか、宮崎の教育勸語の社頭配布とか、本県の様に各種ポスターを配布している県も多かった。千葉の山崎氏より千葉県は事業は何もしない、それより外にやる事が山ほどあるという至極当然な意見も出た。

全体会の席上、北川正保会長が夢に近い話であるが、一億近い金を集め、神社本庁外での神青協独自の建物を建てたいという希望が出て(自主的活動の為)、夢を夢でなく実現に向い努力しようではないかとの話になった。

帰りに盛岡駅前で、名物わんこそばを香川の佐藤氏と柘植氏の三人で食ったが、そばの係が横についてい



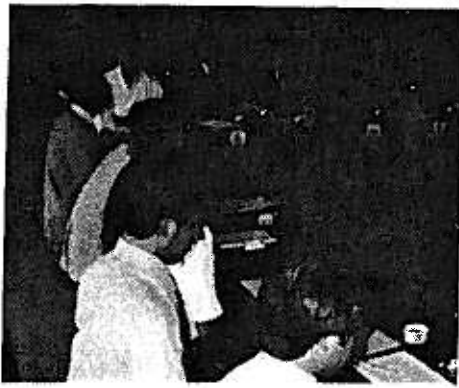
盛岡八幡宮にて

ておわんに次々と入れられるので、食うというか流し込むというか薬味を入れる暇もなく、ふたをしなないと終りにならず、とうとう降参してしまったみやげ話を持って帰路にいたのである。 54・6・23記 以上

愛媛神道青年会

第八回総会開催される

愛媛県神道青年会第八回総会が六月十六日宇和島市の和霊神社で神社庁より菅原副庁長、松木理事、また三輪田宮司の参加いただき開催されました。まず神宮遥拝、国歌斉唱、



敬神生活の綱領唱和のあと会長挨拶 来賓祝辞をいただき、議長に越智重安氏を選出し議案審議にはいり教化事業、広報、調査各委員より昭和五十三年度の活動報告、決算書承認の後、昭和五十四年度事業計画審議、

神道青年全国協議会

創立三十周年記念大会に参加して

予算書審議に入った。それぞれ活発な意見交換の後、昭和五十四年度の事業計画が可決されました。この事業計画にそって会員皆様の参加活動をよりいっそう期待いたします。

六月二十日、東京の明治記念館に於て行なわれた。神道青年会全国協議会創立三十周年記念大会に、長青我部会長、星野副会長外四名の会員と共に、この記念する大会に出席するきかいを得、心より深い感動をいたしました。当会には、全国の各ブロックより二百余名の参加者が明治記念館に集い、厳粛の中にも盛大に執り行なわれました。記念大会は、第一部、「記念式典」、第二部、「記念講演」、第三部、「祝宴」と進められ一部では開会の辞、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、記念事業経過報告、会長挨拶、記念表彰、来賓祝辞、万歳三唱、閉会の辞と進み、記念事業経過報告では、宮間孝夫実行委員長より、昨年八月に北方

領土返還運動月間と定めて神青協全国同志に呼びかけ北方領土返還全国キャンペーンが挙行され、又、一日も早い返還を実現するため会員が「北方領土返還祈願碑の建立除幕式」並に「北方領土返還祈願祭」を現地にて斎行との報告があった。この運動は今後会員が団結して行なわなければならない運動と、心を新たにいたしました。又三十周年を記念して祭祀の厳修にかかす事の出来ない衣冠の着装法をテーマとした記念映画の製作、この映画は各県の神青会に送付される計画とのことで、我々神青会員一同必見しなければならぬ映画と、今より心まちしています。その他七月二十六日に予定されてい

る。明治神宮外苑球場に於いて行なう親善野球大会などの報告があった。そして記念表彰では、愛媛神青再発足をしてその活動への功労に対し先輩和田将信会員が表彰されました。我々県会員一同心より祝い申し上げます。

第二部では衆議院議員、中尾栄一代議士の記念講演が行なわれ、第三部では、会員の親睦をかねた祝宴が盛大に取り行なわれ、この記念する大会に、幕がおりた。

私なりにこの大会に出席して思う事は、神道青年全国協議会が三十周年を迎える事ができたのは、各県の諸先輩又会員の地道な運動によって初めて迎える事ができたのだと思います。私は今こそ愛媛の全会員に今日以降会員一人一人が自分達の手で神青協を造り上げて行くのだと心に念じ自ら進んで会に参加しなくてはならないと、深く感じました。最後に北川会長が挨拶の中で言われた「若き力の結束と、青年神職の誇り高き自覚なくして神青協の前途は無いといっても過言ではない。同志諸君、明日の神青協のために一致団結して事にあたろう」、この言葉を記して今後会員皆様方の参加を希望いたします。 本 多 洋

第三回研修旅行



教化委員主催による第三回研修旅行が会員九名の参加で去る十一月二十六日〜二十八日実施されました。参拝神社は出雲大社、日御碕神社、八重垣神社、熊野大社、以上四社。今回は椿神社氏青の協力によりマイクロバスを貸る事ができ、始めて会員一同、同じ車中で旅行ができました。

二十六日夜、松山港より柳井港へ早朝出雲大社着、正式参拝の後、教育学部長との対話に熱が入り、部長の熱弁に一同予定時間を大幅に伸ばして聞き入った。そして日御碕神社へ、この神社は神社の前を通過して日御碕燈台へゆく道があったが、途中より燈台へのバイパスが完成して参拝者もまばら、この様に現在の交通網である道路一本での神社への影響は良い勉強になった。それより玉造温泉への宿まで、マイクロホンにて北方領土返還の街演活動を行った。玉造温泉では立派な旅館に宿まり一同、新婚旅行以来の立派な旅館と心をな

ごませた。ところがこれが翌日思わぬ結果となるのであるが。

さて翌日は、八重垣神社、熊野大社へ、十一月にしては珍らしく冷え込み、熊野大社では、初雪にみまわれ、古木の参道の中を岡崎宮司が予定時間をはるかにおくれた我々一同を気持よくむかえて下さった。うっそうと茂る古木に雪が舞い、まさに



八重垣神社にて

心洗われる自然がそこにあった。

今回は、特に古社を選んで参拝してみた。古代の人々がどの様な地形に、神社を建立し、今に伝えているかを一同それぞれに勉強する事ができたと思う。またそれぞれの神社の財政的な違い、そしてそれなりの神社運営の方法など、研修旅行は自分

の奉仕神社を対象に、自分自身での判断、感想を得、それだけに、活きた学習ができるものであります。

毎回の研修旅行でもそうであるが今回の旅行も思わぬ出来事が数多くありました。身にそぐわぬ旅館に泊したため、次の昼食はラーメンだったり、車中後部座席は暖房が効かなくて寝ているとおつてをかけて雪が降ったり、道を違えたり、思い出多い研修旅行となりました。

新年互礼会で

思ったこと

昭和五十四年一月二十一日午後二時、新春繁多の中、志を同じくする神青の仲間が集い今年の活躍を誓い合う。

この席上、椿神社宮司長曾我部先生より、「心のかしこき人は、いう言のさまも、なす事(わざ)のさまもそれに応じてかしく心のつたなき人は、いう言のさまも、なすわざのさまも、それに応じてつたなきもの也」という宣長のことばについて傾聴する。

短時間ではありましたが、膝を交えてのこのような語らいを大切にしたいと思いました。

機会があれば、堅苦しい演題などかかげず、親が子に、先輩が後輩に話しかけるような心の通った会の輪を広げてほしいものです。

本当に身近な話題の一つからでもまだまだ知らないことの多い私達が語り合い励まし合うことのできる集まりをもって頂けることを神青会に期待しております。

田内 逸和



昭和53年度 活動報告

7月26日

北方領土返還祈願碑埋込用小石二ヶ根室神青会長宛発送(五色浜の石) 全国協議会が「北方国土返還現地大会」に併せて使用する為に要請のあったもの

8月18日・19日

第7回四国地区神青氏青合同研修会参加八徳島市グランドホテル階楽園

テーマ「奪還せよ北方領土」往復時 宣伝活動実施、四県対抗ボーリング

大会優勝

参加者、和田(柳)、十亀、長曾我部
清家、星野、田内(和)、池内、浅海洋
湊、福本、重松(正)、以上11名

29・30日

四国地区神青撰練成会参加(香川
県小豆島)参加者、十亀、清家、湊
池内、浅海洋、以上5名

9月1日

元号法制化実現愛媛県民会議結成
準備会(八友愛会館)出席者、長曾我
部、清家、星野

24日

元号法制化実現愛媛県民会議結成
大会(済美高校)出席及び社頭活動
呼び掛け

26日

役員会(八神社庁)出席者、長曾我
部、清家、十亀、矢野、池内、井上
星野7名

前会長十亀興美氏に記念品贈呈

11日

南予ブロック会開催(大洲、肱川河
原)

11月1日

会報第8号発行 担当者、池内

19日

役員会(八神社庁)出席、清家、星野
鎌田、正岡、池内、日野、以上6名

26日、28日

第三回研修旅行実施(八雲大社、

日御碕神社、玉造温泉、八重垣神社
熊野大社)参加者、長曾我部、清家
星野、田岡、日野、沼崎、楠部、矢
野、池内、以上9名

12月

初詣ポスター、制作配布

2日

東予ブロック会開催(今治)

11日

中予ブロック会開催(松山)

昭和54年

1月21日

新年互礼会(松山)出席者、長曾
我部、清家、星野、日野、武智、和
田(次)、田内(柳)、田岡、辻田、重松(正)
井上(徳)、山下、富水、楠部、菊池(亮)
鎌田、以上16名

25日

愛媛県神社庁渉外部役員と神青幹
部の懇談会

2月22日、23日

中央研修会参加 (八盛岡)

テーマ「今後の展望と課題―神青
協30年のあゆみを振り返って―」

参加者、長曾我部、清家の2名

3月31日

役員会(今治吹揚神社)出席者、
長曾我部、星野、田窪、池内、楠部

3月下旬

四国四県神社関係者大会打合せ会

出席、(八神社庁)長曾我部、清家、
星野
4月中旬
四国四県神社関係者大会打合せ

(八神社庁)長曾我部、星野

18日

四国四県神社関係者大会応援(本
町会館)出席者、長曾我部、清家、
星野、楠部、田窪、大岡、沼崎、菊
池、矢野、十亀、池内、日野、本多
湊、重松(正)、田内(和)

22日

役員会及び慰労会(八馬羅英亭)出
席同右の他、柳原

22日

四国ブロック連絡会(香川、田村神
社会館)出席、長曾我部、清家、星
野

5月27日

神社庁祭式講習会に神青として参
加(八神社庁)

6月16日

第8回総会、宇和島(八和霊神社)

昭和53年度

寄附助成者芳名

順不同

三万三千元

宇和山支部殿

三万円

石鏡神社殿(十亀和作宮司)

二万円

和霊神社殿(三和田元亮宮司)

一宮神社殿(矢野国雄宮司)

一万五千元

松浦文郎殿(三島神社)

北条支部

愛媛県護国神社(正岡定幸宮司)

一万円

清家貞雄殿(八幡神社)

越智大介殿(三島神社)

武智圭邑殿(波賀部神社)

葛城光彦殿(飯積神社)

石川梅蔵殿(橋本神社)

平田茂光殿(玉生八幡神社)

大洲支部殿

城戸利徳殿(祇園神社宮司)

和氣須賀雄殿(大宮八幡神社)

星野暢広殿(伊予稲荷神社)

鎌田正一郎殿(出海神社)

周桑支部殿

別府頼雄殿

一万一千元

池内克水殿(加茂神社)

菅原稜威雄殿(三島神社)

七千元

辻田正明殿(住吉神社)

五万円

大山祇神社殿(三島安久宮司)

- 玉井正素殿
- 六千円
- 峰本保雄殿(三島神社)
- 三輪田元敬殿
- 五千円
- 阿部義文殿
- 池内公和(加茂神社)
- 渡辺和敏殿
- 阿沼美神社殿(田内逸和宮司)
- 吉田充敏殿
- 蔵島神社殿(柳原警根宮司)
- 宮原浄人殿(弓削神社)
- 相原龍殿(浮島神社)
- 高市守久殿
- 椎名津千風殿
- 真鍋隼士郎殿
- 武智信八州殿
- 伊予稻荷神社殿
- 高市慶久殿
- 高橋三郎殿(橘新宮神社)
- 武智勲殿(三嶋大明神社)
- 宇和海支部殿
- 賀茂神社殿(上甲源一宮司)
- 西宇和支部殿
- 近藤茂生殿
- 八幡神社殿(阿部重満宮司)
- 客神社殿(鎌田正行宮司)
- 河上勝徳殿
- 正岡重慶殿
- 石岡神社殿(十亀四郎宮司)

昭和五十三年度愛媛県神道青年会収支決算書
(一般会計)

収 入 の 部 (単位 円)				
項 目	決算額	予算額	増・減△	備 考
1 会費収入	266,000	300,000	△ 34,000	会費45人 互礼会費 80,000円
2 助成金	150,000	150,000	0	愛媛県神社庁
3 寄附金	682,000	400,000	282,000	大山祇神社 他
4 雑収入	61,073	14,062	47,011	四国四県神社関係者大会手伝 謝礼金他
5 繰越金	315,938	315,938	0	
合 計	1,475,011	1,180,000	295,011	
支 出 の 部				
1 会議費	241,940	200,000	41,940	総会 互礼会 他
2 研修教化費	70,000	170,000	△ 100,000	講師謝礼・ブロック助成金
3 事務費	67,950	40,000	27,950	郵送料、文具他
4 備品費	19,690	10,000	9,690	ポラロイドカメラ公報用
5 旅費	99,720	100,000	△ 280	各研修会参加補助
6 交際費	21,870	30,000	△ 8,130	前会長記念品、火事見舞
7 事業費	223,800	200,000	23,800	切語ポスター印刷、送料
8 広報費	59,800	120,000	△ 60,200	会報第8号関係
9 調査費	0	150,000	△ 150,000	
10 負担金	140,750	100,000	40,750	30周年記念協賛金 他
11 雑支出	0	10,000	△ 10,000	
12 予備費	0	50,000	△ 50,000	
13 積立金	150,000	-	150,000	定期預金
合 計	1,095,520	1,180,000	△ 84,480	
収入合計	1,475,011 円			
支出合計	1,095,520 円			
差引残高	379,491 円			(昭和54年度へ繰越)

昭和54年6月16日

愛媛県神道青年会長 長曾我部 延昭 提出

監 査 報 告

昭和53年度愛媛県神道青年会決算書は、監査の結果正確であったことを認めます。

昭和54年6月16日

監事 沼崎 守文
同 日野 諄二

- 大内明殿
- 寺谷正徳殿(岡森神社)
- 新藤正一殿
- 八幡神社殿(菊池文史宮司)
- 渡辺久雄殿(滝神社)
- 八幡神社殿(阿部廉夫宮司)
- 三島神社殿(一ノ宮博信宮司)
- 綾延神社殿
- 別府寿昭殿
- 高縄神社殿
- 参千円
- 玉井 静次殿
- 額田 重則殿
- 中西 明殿
- 高市 健吾殿
- 都子野清彦殿
- 八幡神社殿(是沢美久雄宮司)
- 八幡神社殿(星加道雄宮司)
- 南宇和郡支部殿
- 二千元
- 菊笠 保殿
- 本多 洋殿
- 渡部 正己殿
- 高市 殿
- 堀 晴夫殿
- 武市 勉殿
- 菅原 醇殿
- 都子野政子殿
- 森 善満殿
- 竹内武一郎殿
- 磐根神社殿(佐伯英一宮司)
- 助成金 一五万円
- 謝礼金 五万円
- 四国四県神社関係者大会助務に対して
- 愛媛県神社庁
- 新年互礼会お祝金 一万円
- 長曾我部 勝殿
- 森 正史殿
- 波頭 一徳殿
- 千円
- 矢野 博綱殿
- 武智 成彬殿

お知らせ

第八回四国地区

神青合同研修会開催

当番 香川県神道青年会 香川県氏子青年会

期日

昭和54年8月17日(金)・18日(土)

一泊二日

会場

野田会館

◎七六〇 高松市錦町二一三

電話 〇八七八一五一―四五二六

集合日時

昭和五十四年八月十七日 十二時

主催

四国ブロック神道青年会氏子青年会

参加費

一名 五、〇〇〇円也(宿泊費懇親会費、ボーリング大会費を含む)

当日会場にて申受けます

持参品

筆記具、洗面具等

修了証

全日程を修了されますと香川県地方研修所より修了証が交付されます

Grid for notice information

昭和五十四年度愛媛県神道青年会予算(案)

Financial statement table with columns for income and expenses, including items like membership fees, research fees, and administrative costs.

申込先

星野 暢広

伊予市稲荷一三三六

◎八九九八・二・一〇六〇

研修会テーマ「日本のこころ」

講師

「伊勢神宮と神饌」

伊勢神宮権祿直

伊勢神宮弘報課長

「櫻のこころ」

岩田 貞雄先生

香川県神社庁顧問 善通寺市立図書館長

「古事記からみた日本人」 草薙金四郎先生

「助言・講師」 国学院大学教授 安津 素彦先生

神社本庁教学部主事 落合 偉洲先生

落合 偉洲先生

Small table with dates and times: 14. 30, 13. 30, 13. 00, 12. 00

親睦ボーリング大会 昭和54年8月18日(土) 午後一時三〇分より

Large table with columns for dates and times, including activities like '就寝', '夕食', '休憩', '入浴', '講演', '起床', '正式参拝', '朝食', '意見発表', '休憩', '助言・講評', '閉会式', '昼食', '移動', 'ボーリング大会', '現地解散'.

高松市浜ノ町

電話(0878)511855

参加資格 四国地区神青・氏青会員

試合方法

個人戦

参加者各二ゲームを行い合計得

点による

団体戦

個人戦の各県上位5名の総合得

点による

雅楽研修会

先般より雅楽研修会を左記用項にて実施いたしております。この機会に一人でも多くの会員の皆様にご参加願えればと、お誘いする次第です。是非御出席下さり御精進賜われます様御案内申し上げます。

記

講師 龍笛 筆葉 尾上 一良先生
鳳笙 田岡 穆先生

日時 毎週金曜日

午後七時より午後九時まで

場所 松山市味酒町三丁目一ノ一
阿沼美神社

椿 神 社 重松 正寛

電話(0899)561177

阿沼美神社 田内 逸和

電話(0899)311711

。管をお持ちでない方は、現在練習用のプラスチック製のものが市販されていますから御利用頂いてご参加下さい。



→中予 ←東予 練習風景



***日ノ丸ステッカー配布

好評でした日ノ丸ステッカーを再び配布いたします。

一部 三十円

(在庫 千枚)

氏子必携読本「神葬祭のしおり」

「祖先」のまつり

監修 礼典研究会会長

高沢 信一郎

国学院大学教授 小野 和輝

発行者 神道青年全国協議会

一部 二百円

(在庫 百部)

以上

申込みは

伊予市桶荷一三三六

星野 暢 広迄

TEL 08998・21060



新会員紹介



宣称神社 島柳原 宰

趣味

ギター、レコード鑑賞、サッカー

免許・資格等

普通免許、中学一級・高校二級教

諭免許、社会主事資格に要する単

位修得

抱負

もとより浅学非才の身ではありませんが、一生懸命神明奉仕に励む所存です。今後共、宜敷く御指導の程お願い致します。

昭和三十一年十一月二十日生



司宮神社 三島 佐藤 豊

私このたび思いがけぬ御縁に恵まれました、土居重喜先生の後任として、三島神社の宮司を拝命いたしました。

もとより二十八才の若輩、わけてもはじめての実務に就かせて頂くこととて、何程か不安も無いわけではございませんが、土居重喜先生の御高徳を仰ぎつつ、ひたすら御神慮のままに身を捧げて、この大任を果させて頂きたいと存じます。

何卒、御高承賜り、よろしく御指導御へんたつの程をお願い申し上げます。

編集後記

会報九号、研修会並びに会合に皆様方の参加を願って発刊いたします。